

自己点検・自己点検評価基準項目チェックシート(平成29年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェックする欄にも次の記号を入れて下さい。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(アイウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	平成28年度(前年度)自己点検評価状況	前年度改善を要した事項 (平成28年度記入)	平成29年度 チェック欄	平成29年度 実施・改善状況	改善を要する事項 (平成29年度記入)
1 学習・教育到達目標の設定と公開		教務委員会 (専攻科委員会)					
1-1 学習・教育到達目標の設定と公開	(1) 学習・教育到達目標の設定と公開、伝統、資源、卒業生及び修了生の活躍分野等の考慮、社会の要求や学生の要望への配慮						
	ア 学習・教育到達目標		【教務委員会】 学習・教育目標の設定を行っている。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の設定し、授業との対応表に基づき授業を実施している。また、国際ビジネス学専攻、海事システム工学専攻においても教育目標の項目に対応する取得単位数を専攻科委員会射水キャンパス部会にて確認して指導する体制を整えて実施した。		○ ○	【教務委員会】 学習・教育到達目標の設定を行っている。授業と学習・教育目標との対応表を作成した。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の設定し、授業との対応表に基づき授業を実施している。	
	イ 学習・教育到達目標の各項目と基準の設定およびその関係		【教務委員会】 学習・教育目標の各項目に基づき、各学科の特色に合わせた基準を設けている。 【専攻科委員会】 各専攻は、学習・教育到達目標の各項目に基づき、それぞれの専攻の特色に応じた基準を設け、適切に実施している。		○ ○	【教務委員会】 学習・教育目標の各項目に基づき、各学科の特色に合わせた基準を設けている。 【専攻科委員会】 各専攻は、学習・教育到達目標の各項目に基づき、それぞれの専攻の特色に応じた基準を設け、適切に実施している。	
	ウ 過去4年間における学習・教育到達目標の改訂内容と改訂理由	【教務委員会】 学習・教育到達目標に変更はない。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を、継続して実践した。 【機械システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を、継続して実践した。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実践した。今後、学習・教育到達目標等について検討することとした。 【物質化学工学科】 学習・教育到達目標変更に関する検討は行わなかった。懸案事項であるアドミッションポリシーの改正に係る検討を学科会議で繰り返し行い、現在、提案された6つの候補項目から3つを選定する段階にある。 【電子情報工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を、継続して実践した。	高専イニシャティブ4.0推進により、アドミッションポリシーのみの改正で良いのかを検討してゆく必要あり。	○ ○ ○ △ ○	【教務委員会】 学習・教育到達目標に変更はない。 【専攻科委員会】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を、継続して実践した。 【機械システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を、継続して実践した。 【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実践した。今後、学習・教育到達目標等について引き続き検討することとした。 【物質化学工学科】 アドミッションポリシーの改正に係る検討を学科会議で繰り返し行い、候補項目から3つを選定する段階にあるが選定案を協議中である。 【電子情報工学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を、継続して実践した。MCCに適応させた。	新教育体制整備計画を考慮したアドミッションポリシーを検討する必要有り。	

	<p>【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実践した。</p> <p>【商船学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を、継続して実践した。また、教育内容については5校の商船系の高専が連携してモデルコアカリキュラム策定の検討を行った。</p> <p>【一般教養科】 平成28年度より、物理、化学の理論の理解をより深めるために2年次の後期に理科実験を行っている。</p>		○	<p>【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を継続して実践した。</p> <p>【商船学科】 学習・教育到達目標に変更はない。従前の目標を、継続して実践した。モデルコアカリキュラムが策定された。</p> <p>【一般教養科】 カリキュラムのバランスを考え工学4学科の4年の統計学を3年の確率と統計に変更した。同じ理由で、国際ビジネス学科4年の言語学を3年に変更した。</p>	
エ 社会の要求や学生の要望を考慮するためのシステムの存在と運用実績	<p>【教務委員会】 学生による授業評価アンケート結果を通して、学生の要求・要望等の把握を行っている。前後期の2回、学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの全体的な集計結果に基づき、FD委員会や教務委員会で授業改善に向けた意見交換を行い、各個別データについては所属学科長を通じ教員へフィードバックし、学科内で改善点について話し合いを行った。</p> <p>(本郷キャンパス教務委員会) 学生と校長等との懇談会を実施し、学生の意見・要望等の把握を行っている。</p> <p>(射水キャンパス教務委員会) 学生と校長等との懇談会を実施し、学生の意見・要望等の把握を行っている。</p> <p>【機械システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【物質化学工学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【電子情報工学科】 今年度も学生の要望等を聞くために授業評価アンケートを実施するとともに学科独自でweb形式のアンケートを実施し授業改善に役立てた。</p> <p>【国際ビジネス学科】 引き続き、学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p>		○	<p>【教務委員会】 学生による授業評価アンケートを実施し、FD委員会で授業改善に向けた意見交換を行った。各個別データについては所属学科長を通じ教員へフィードバックし、学科内で改善点について話し合いを行った。学生と校長等との懇談会を実施し、学生の意見・要望等の把握を行っている。運営諮問会議(2回)において、外部委員との意見交換を行った。県西部の中学校長を招き、本校の概要説明、施設見学、学生による現状報告の後、意見交換を行った。</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>【機械システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【物質化学工学科】 学生の要望等を聞くためにすべての授業科目について授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p> <p>【電子情報工学科】 今年度も学生の要望等を聞くために授業評価アンケートを実施するとともに学科独自でweb形式のアンケートを実施し授業改善に役立てた。</p> <p>【国際ビジネス学科】 引き続き、学生の要望等を聞くために授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。その際、授業の改善について学科長と担当教員が話し合いの場を設けるなど、教員が孤立しないような取り組みを行なった。他方、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて聞き取りを行った。</p>	

	<p>【商船学科】 海事人材育成プロジェクトの一環として、「英語力育成」、「教材開発」、「電子書籍化」事業を実施した。プロジェクトが完了するため、新しいプロジェクト予算の確保に努め継続実施の活動を行った。 また、身体的理由により、長期大型船実習が困難になった学生については、乗船実習の代替え措置により卒業出来る制度に改善した。</p> <p>【一般教養科】 学生の要望等を聞くために、授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。さらにそれらをシラバスに反映し、授業改善を行っている。</p>		○	<p>【商船学科】 次世代海事人材育成プロジェクトを立ち上げ、「英語力育成」、「教材開発」、「カリキュラム検討」「ニーズ調査」の事業を実施した。また、身体的理由により、長期大型船実習が困難になった学生については、乗船実習の代替え措置により卒業出来る制度を運用している。</p> <p>【一般教養科】 学生の要望等を聞くために、授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施した。さらにそれらをシラバスに反映し、授業改善を行っている。</p>	
オ 学習・教育到達目標の水準の設定に関する説明	<p>【教務委員会】 学生に対し、入学時オリエンテーションで説明を行っている。</p> <p>【専攻科委員会】 入学時のオリエンテーションにおいて、学習・教育到達目標の水準の設定については、学生に十分説明している。 各授業科目の開始時に行うオリエンテーションでは、シラバスを配布して説明を行っている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【物質化学工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。これ以外でも、折にふれ授業内でシラバスを確認するように学生に学生を促している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【電子情報工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【国際ビジネス学科】 引き続き、学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【商船学科】 商船学科で電子掲示版を設置し、常時学生に学習・教育到達目標の水準について掲示し周知に努めた。さらに授業開始時に学生にシラバスを配布し、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みを十分説明した。</p> <p>【機械システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明した。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明した。</p>		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	<p>【教務委員会】 学生に対し、入学時オリエンテーションで説明を行っている。</p> <p>【専攻科委員会】 学習・教育到達目標の水準の設定については、入学時のオリエンテーションにおいて、学生に、十分説明している。 各授業科目の開始時に行うオリエンテーションでは、シラバスを配布して説明を行っている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【物質化学工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。これ以外でも、折にふれ授業内でシラバスを確認するように学生に学生を促している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【電子情報工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【国際ビジネス学科】 引き続き、学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p> <p>【商船学科】 商船学科での電子掲示版を拡充した。常時学生に学習・教育到達目標の水準について掲示し周知に努めた。さらに授業開始時に学生にシラバスを配布し、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みを十分説明した。</p> <p>【機械システム工学科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明した。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明した。</p>	

		<p>【一般教養科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p>			○	<p>【一般教養科】 学習・教育到達目標の水準の設定については、授業開始時に学生にシラバスを配布し、学生に、十分説明している。また、授業の目標、計画、内容、評価の仕組みも説明している。</p>	
カ	<p>学習・教育到達目標における伝統、建学の精神、理念などの考慮</p>	<p>【教務委員会】 教育理念・社会からの需要を踏まえ、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【専攻科委員会】 本校の学習・教育到達目標は、伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、設定されたものであり、その理念のもとに本年度も学習・教育が継続して実践された。</p> <p>【機械システム工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 さらに、学科会議において、教育理念に照らし合わせて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p> <p>【電気制御システム工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また、学科会議において、教育理念に照らし合わせて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。 さらに、物理、数学において一般教養科との科目間連携を実施し、担当者間で授業内容の検討等を行った。</p> <p>【物質化学工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。他学科同様に、今年度始めにカリキュラムポリシー及びデプロマポリシーを設定した。現在、アドミッションポリシー改正の議論が当該学科で進んでおり、複数案からの絞り込み段階にきている。</p> <p>【電子情報工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また、学科会議において、教育理念に照らし合わせて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p> <p>【国際ビジネス学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。例えば、今年度も3学年と4学年では本校練習船による終日または1泊2日の乗船実習を、また1学年と2学年は近隣の海洋教育施設の協力のもとで停泊での実習や講義を行った。</p> <p>【商船学科】 昨年同様に伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。また、商船学科学生を一同に集め商船学科集会を開催し、商船学科固有の教育方針、シーマンシップについての意識の向上を図った。</p> <p>【一般教養科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。同じ学年であっても、学科によって伝統や建学の理念が異なるため、それぞれの学科の特色に合わせて学習・教育到達目標の設定を行い、教科書や参考書、担当教員など選んでいる。</p>	<p>高専イニシャティブ4.0推進により、アドミッションポリシーのみの改正で良いのかを検討してゆく必要あり。(ウの項目に同じ)</p>		○ ○ ○ ○ △ ○ ○ ○ ○	<p>【教務委員会】 本校の学習・教育到達目標は、伝統、建学の精神、理念などを踏まえ設定されたものである。</p> <p>【専攻科委員会】 本校の学習・教育到達目標は、伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、設定されたものであり、その理念のもとに本年度も学習・教育が継続して実践された。</p> <p>【機械システム工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。さらに、学科会議において、教育理念に照らし合わせて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p> <p>【電気制御システム工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また、学科会議において、教育理念に照らし合わせて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。 さらに、低学年の専門基礎科目、実験等において担当者間で科目間連携、授業内容の検討等を行った。</p> <p>【物質化学工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。他学科同様に、今年度始めにカリキュラムポリシー及びデプロマポリシーを設定した。現在、アドミッションポリシー改正の議論が当該学科で進んでおり、新教育体制も見据えた上で複数案からの絞り込み段階にある</p> <p>【電子情報工学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。 また、学科会議において、教育理念に照らし合わせて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p> <p>【国際ビジネス学科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。例えば、今年度も3学年と4学年では本校練習船による終日または1泊2日の乗船実習を、また1学年と2学年は近隣の海洋教育施設の協力のもとで停泊での実習や講義を行った。</p> <p>【商船学科】 昨年同様に伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。また、商船学科学生を一同に集め商船学科集会を開催し、商船学科固有の教育方針、シーマンシップについての意識の向上を図った。</p> <p>【一般教養科】 伝統、建学の精神、理念などを踏まえ、学習・教育到達目標の設定を継続実践した。同じ学年であっても、学科によって伝統や建学の理念が異なるため、それぞれの学科の特色に合わせて学習・教育到達目標の設定を行い、教科書や参考書、担当教員など選んでいる。</p>	<p>新教育体制への移行も見据えたアドミッションポリシーの改正が必要</p>

<p>キ 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの人的、設備的資源の考慮</p>	<p>【教務委員会】 博士号所有の専任教員及び企業を始め他機関での勤務経験者を配置し、創造的かつ実践的な技術者・実務者の育成を行っている。また、新教育課程に必要な設備整備を順次進めている。</p> <p>【専攻科委員会】 全専攻に専攻担当を設け、人的資源、設備的資源に関し継続的に考慮実施した。国際ビジネス学科の教員異動に伴う教員2名の補充により、国際ビジネス学専攻でH29年度から実施される新科目の開講手続きを行った。</p> <p>【機械システム工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。また、学科会議において授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。なお、後援会からの寄附金により、共通実験室の環境整備を行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。なお、学科会議において授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。また、学科共通経費等により、学生実験等で使用する教育実験設備を整備した。さらに、学生数増加に伴い、教室の照明、ホワイトボードの整備等を行った。昨年度までオムニバス形式で実施していた1年生の技術者倫理入門に対して、学科で対応するため、専属教員を配置した。</p> <p>【物質化学工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。 1年物質化学基礎実験での担当教員4人体制の確立と5年先端化学における担当教員のコマ数増加による授業内容の深遠化を継続した。また、昨年度末の計画通りオムニバス形式で行われている1年生の技術者倫理入門において、専属教員による講義を実現した。更に物理化学実験および化学工学実験の充実を図るために化学天秤（4台）の更新および蒸留水製造装置のメンテナンスを行った。</p> <p>【電子情報工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。 なお、共通ゼミ室を、プレゼンや研究会を行える施設として使用できるように整備を行った。従来オムニバス形式で行われていた1年生の技術者倫理入門において、電子情報工学科教員による授業を実現した。1年ものづくり実験については、工場と連携した実験とし、学科が対象とする、ものづくりと電気電子情報分野を網羅する内容に改善した。</p> <p>【国際ビジネス学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。今年度は、教員異動に伴い、新たに商学、経済学分野を担当できる博士号取得者を1名ずつ補充した。また、特別教室（語学教室）にプロジェクターを2台設置して、パワーポイントを使用した第二外国語の授業をできるようにした。</p> <p>【商船学科】 昨年同様に人的資源、設備的資源ともに継続実施した。また、STCW条約に対応するための最新の実習・教育が行われるよう、ECDIS講習や消防・救命講習などの講習会に教員を派遣し研修を行った。引き続き、海技士免状と博士の学位のいずれかを取得している人の採用に努力する。</p> <p>【一般教養科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。</p> <p>〔射水キャンパス〕</p> <p>退職者・転職者に伴い、来年度に向けて体育と英語担当の教員を、それぞれ1名ずつ採用した。</p>	<p>学生実験実施に係る機器類の順次更新を進めて行く必要がある（生物化学実験室の化学天秤、その他）</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【教務委員会】 博士号所有の専任教員及び企業を始め他機関での勤務経験者を配置し、創造的かつ実践的な技術者・実務者の育成を行っている。また、新教育課程に必要な設備整備を順次進めている。</p> <p>【専攻科委員会】 各専攻ともに専攻担当を設け、人的資源、設備的資源ともに継続実施した。</p> <p>【機械システム工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。また、学科会議において授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p> <p>【電気制御システム工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。なお、学科会議において授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。また、学科共通経費等により、学生実験等で使用する教育実験設備を整備した。</p> <p>【物質化学工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。 1年物質化学基礎実験での担当教員4人体制の確立と5年先端化学における担当教員のコマ数増加による授業内容の深遠化を継続した。また、昨年度末の計画通りオムニバス形式で行われている1年生の技術者倫理入門において、専属教員ならびに客員教員による講義を実現した。更に新設された機器分析実験実施のため、NMRのメンテナンスを継続実施した。</p> <p>【電子情報工学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。 1年生の技術者倫理入門において、電子情報工学科教員による授業を継続実施・改善した。1年ものづくり実験については、工場と連携した実験とし、学科が対象とする、ものづくりと電気電子情報分野を網羅する内容に継続改善した。</p> <p>【国際ビジネス学科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。</p> <p>【商船学科】 人的資源については、引き続き、海技士免状と博士の学位のいずれかを取得している人の採用に努力する。設備的資源については、STCW関連の設備備品に拡充した。STCW条約に対応するための最新の実習・教育が行われるよう、ECDIS講習や消防・救命講習などの講習会に教員を派遣し研修を行った。</p> <p>【一般教養科】 人的資源、設備的資源ともに継続実施した。</p> <p>〔射水キャンパス〕</p> <p>人的資源、設備的資源ともに継続実施した。</p>	<p>NMRのメンテナンス継続のための外部資金獲得が急務である。</p>
--	--	---	--	---	--------------------------------------

<p>ク 学習・教育到達目標における当該カリキュラムの歴史と構成、特徴・特色の考慮</p>	<p>【教務委員会】 新教育課程が完成年度を迎えたことから、点検し、改定を行っている。</p> <p>【専攻科委員会】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。</p> <p>【機械システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、1～3年生に対してHRなどを使い、学科の学習・教育到達目標と学習内容、卒業後の進路を説明した。また、3年生に対しては履修科目のつながり(系統図)と4年次の学習内容、進路等について説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 現在、5年の科目であるCADを、当該学科のニーズにそった授業内容への変更とそれに伴う科目名の変更を進めている。また、平成31年度から名称変更が決まっている4年機器分析実験の内容と担当教員選定の作業に取りかかった。</p> <p>【電子情報工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。時に、専攻科進学希望者の研究室配属を優先させ、早期に卒業研究を開始することで、本科生の学会発表が活発となっている。また、イノベーションセンターと連携して、4年生を対象に、富山県情報産業協会主催のとやまITフェアに参加することで、県内の情報産業の取り組みを学ぶ機会を作っている。さらに、1～3年に対し、学習内容、卒業後の進路を説明した。</p> <p>【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。3年前に国際流通学科から新たに国際ビジネス学科、並びに、国際ビジネス学専攻へと改変した結果、新専攻科において特別研究を担当できる教員が偏った。今年度は、教員異動に伴い特別研究の担当資格を有する教員を2名採用できた。今後も改善を図る。</p> <p>【商船学科】 昨年同様に学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。また、カリキュラムについては5校の商船系の高専が連携してモデルコアカリキュラムを策定した。</p> <p>【一般教養科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、本校に設置された6学科では、それぞれの特性に応じて、輩出する人材像が異なる。そこで、本教養科では、教育目標や教育内容、進度、難易度を考慮し、教育に工夫を凝らしている。なお、本校に設置された6学科では、それぞれの特性に応じて、輩出する人材像が異なる。そこで、本教養科では、教育目標や教育内容、進度、難易度を考慮し、教育に工夫を凝らしている。</p>	<p>CADの名称変更と講義内容の変更、および機器分析実験開講に向けての使用機器と担当教員の人選を確実に進める必要あり。</p> <p>研究業績の蓄積、あるいは、学位取得、さらには専攻科の専攻の改編等を通じて、改善を継続していきたい。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【教務委員会】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。</p> <p>【専攻科委員会】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。</p> <p>【機械システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、1～3年生に対してHRなどを使い、学科の学習・教育到達目標と学習内容、卒業後の進路を説明した。また、3年生に対しては履修科目のつながり(系統図)と4年次の学習内容、進路等について説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っており、4年生までが新カリキュラム適用となっている。現在、5年の科目であるCADを、当該学科のニーズにそった授業内容への変更は完了したが、科目名の変更は実施しなかった。また、平成30年度から実施する4年機器分析実験の内容と担当教員の選定を行った。</p> <p>【電子情報工学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。時に、専攻科進学希望者の研究室配属を優先させ、早期に卒業研究を開始することで、本科生の学会発表が活発となっている。また、イノベーションセンターと連携して、4年生を対象に、富山県情報産業協会主催のとやまITフェアに参加することで、県内の情報産業の取り組みを学ぶ機会を作っている。さらに、1～4年に対し、学習内容、卒業後の進路を説明した。</p> <p>【国際ビジネス学科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。</p> <p>【商船学科】 昨年同様に学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。また、モデルコアカリキュラムに基づき、5校の商船系高専と協働して、共通カリキュラムの策定に関して議論を始めた。</p> <p>【一般教養科】 学習・教育到達目標におけるカリキュラムの歴史と構成等を考慮して、点検・改定を行っている。 なお、本校に設置された6学科では、それぞれの特性に応じて、輩出する人材像が異なる。そこで、本教養科では、教育目標や教育内容、進度、難易度を考慮し、教育に工夫を凝らしている。</p>	<p>○</p> <p>【教務委員会】 今までの卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育目標が設定されている。</p>
<p>ケ 学習・教育到達目標における卒業生の活躍分野の考慮</p>	<p>【教務委員会】 今までの卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p>		<p>○</p>		

	(2) 学内外への公開方法	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 HP, 学生便覧に掲載。(新学科は平成 22 年 4 月から掲載)		○	【教務委員会】 HP, 学生便覧に掲載している。	
			【専攻科委員会】 学習・教育到達目標を HP、学生便覧で公開している。		○	【専攻科委員会】 JABEE 認定教育プログラムを含め、学習・教育到達目標を公開している。	
2	教育手段						
2-1	教育課程の設計	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 低学年に一般的科目を多く配置し、高学年になるに従い専門科目を多く導入するくさび形の科目配置でのカリキュラム設計を行っている。		○	【教務委員会】 低学年に一般的科目を多く配置し、高学年になるに従い専門科目を多く導入するくさび形の科目配置でのカリキュラム設計を行っている。 全国高専のコアカリキュラムへの対応を行った。	
	ア 学習・教育到達目標を達成させるためのカリキュラム設計		【専攻科委員会】 学習・教育到達目標を達成させるためのカリキュラム設計がされ、また修了要件等について学生自身が確認できるように配慮されている。		○	【専攻科委員会】 学習・教育到達目標を達成させるためのカリキュラム設計がされ、また修了要件等について学生自身が確認できるように配慮されている。	
	イ カリキュラムの教員および学生への開示方法		HP 及び学生便覧にカリキュラムを掲載している。また、入学時にオリエンテーションで説明を行っている。		○	HP 及び学生便覧にカリキュラムを掲載している。また、入学時にオリエンテーションで説明を行っている。	
	ウ 標準終了年限および教育内容の設定		設置基準に規定されている。		○	設置基準に規定されている。	
	(2) 科目の授業計画書(シラバス)の作成・開示とそれに従った教育の実施	教務委員会 (専攻科委員会)					
	ア 各科目のシラバスの作成。シラバスには、カリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績評価方法、評価基準を明示		【教務委員会】 モデルコアカリキュラムを考慮し、従来の項目にさらに「育成する社会人基礎力」「単位の内訳」「JABEE 基準」「科目の達成目標」項目を追加し、両キャンパス共通のシラバスを作成している。		○	【教務委員会】 全国高専統一の web シラバスを作成した。本シラバスには、学科の到達目標項目との関係、到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価方法が明示されている。	
			【専攻科委員会】 各科目について、カリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績評価方法、評価基準を明示したシラバスを作成している。また、全専攻について教育目標と授業科目の対応表を入学時ガイダンス等で説明した。		○	【専攻科委員会】 各科目について、カリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績評価方法、評価基準を明示したシラバスを作成している。また、全専攻について教育目標と授業科目の対応表を入学時ガイダンス等で説明した。	
	イ 各科目における達成目標設定の際の社会の要請する水準の考慮方法		【教務委員会】 学生による授業評価アンケート結果を十分検討し、作成している。 前後期の 2 回、学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの全体的な集計結果に基づき、FD 委員会や教務委員会で授業改善に向けた意見交換を行い、各個別データについては所属学科長を通じ教員へフィードバックし、学科内で改善点について話し合いを行った。 6/30, 7/1 に本郷・射水各キャンパスに中学校進路指導担当教員を招き、本校の概要説明、施設見学、学生による現状報告の後、本校への要望等について意見交換を行った。 また、11/15 に本郷キャンパスに富山市中学校長会役員を招き、本校の概要説明、施設見学、学生による現状報告の後、オープンキャンパスの時期や高専の実情について中学校から要望があった。		○	【教務委員会】 各科目の到達目標は、社会の要請を考慮し作成されたモデルコアカリキュラムに準拠している。	
			【専攻科委員会】 シラバスは、学生による授業点検アンケート、科目別学習目標達成度調査の結果、外部識者からの意見等を十分検討した上で作成されている。		○	【専攻科委員会】 シラバスは、学生による授業点検アンケート、科目別学習目標達成度調査の結果、外部識者からの意見等を十分検討した上で作成されている。	

	ウ シラバスの開示方法		<p>【教務委員会】 Webにより公開している。また、学生には印刷したものを配付している。</p> <p>【専攻科委員会】 ホームページ上で公開しており、各教員が学期開始時の授業で、印刷したものを配付している。</p>		○	<p>【教務委員会】 Webにより公開している。また、学生には印刷したものを配付している。</p> <p>【専攻科委員会】 ホームページ上で公開しており、各教員が学期開始時の授業で、印刷したものを配付している。</p>		
	(3) 学生自身の達成度点検と学習への反映	教務委員会 (専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確している。</p> <p>【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確し、学習へ反映している。</p>		○	<p>【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確している。</p> <p>【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確し、学習へ反映している。</p>		
2-2	学習・教育の実施	(1) シラバスに従った教育の実施	教務委員会 (専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 シラバスの授業計画に基づき各授業を実施している。</p>		○	<p>【教務委員会】 シラバスの授業計画に基づき各授業を実施している。</p>	
		(2) 自己学習時間を確保するための取り組み	教務委員会 (専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 各科目において、課題を課すなど自己学習を促すための対応をとっている。また、放課後の時間を確保できるような校時を設定している。</p>		○	<p>【教務委員会】 各科目において、課題を課すなど自己学習を促すための対応をとっている。また、放課後の時間を確保できるような校時を設定している。</p>	
		(3) 学生の達成状況の継続的な点検	教務委員会 (専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確している。</p> <p>【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確している。</p>		○	<p>【教務委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確している。</p> <p>【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確している。</p>	
2-3	教育組織	(1) 教員の数と能力および教育支援体制 ア 教員の数と能力	校長	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の人数については各学科の定員を満足するように配置している。 ・年度ごとに各教員に研究業績を提出してもらっている。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の人数については各学科の定員を満足するように配置している。 ・年度ごとに各教員に研究業績を提出してもらっている。 	
		イ 教育支援体制		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の支援として、校長裁量経費、研究助成等を選考することで支援している。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の支援として、校長裁量経費、研究助成等を選考することで支援している。 	
	(2) 科目間の連携・教育効果改善教員間連絡ネットワーク組織の存在と活動の実施 ア 教員間連絡ネットワークの存在	副校長 教務委員会	<p>【副校長】 各キャンパスにおいて、定期的に校長と副校長、校長補佐、学科長との懇談会を実施している。また、教員会議、各種委員会、学科会議などを定期的に開催し、情報共有と意見交換を行っている。</p> <p>【教務委員会】 学科会議・教務委員会等において、連携・教育効果について検討を行っている。</p>		○	<p>【副校長】 各キャンパスにおいて、定期的に校長と副校長、校長補佐、学科長との懇談会を実施している。また、教員会議、各種委員会、学科会議などを定期的に開催し、情報共有と意見交換を行っている。</p> <p>【教務委員会】 学科会議、教務委員会、理数教育改善専門部会等が存在する。</p>		
	イ 教員間連絡ネットワークの活動実績		<p>【副校長】 校長と両キャンパスの副校長、校長補佐との連絡会を定期的に開催した。両キャンパスの教員のコミュニケーションが図れるように、会議は両キャンパスで交互に開催した。さらに、テレビ会議を有効に活用して教員コミュニケーションをはかった。</p> <p>【教務委員会】 学科会議の中で「シラバス検討会」及び「カリキュラム検討会」等の時間を設け、各科目間の教育内容の相互理解や情報交換を行っている。</p>		○	<p>【副校長】 校長と両キャンパスの副校長、校長補佐との連絡会を定期的に開催した。両キャンパスの教員のコミュニケーションが図れるように、会議は両キャンパスで交互に開催した。さらに、テレビ会議を有効に活用して教員コミュニケーションをはかった。</p> <p>【教務委員会】 上記ネットワークにおいて、モデルコアカリキュラムに対応するための協議を頻繁に実施し、科目間の連携を図った。</p>		

	(3) 教員の質的向上を図る仕組み(FD)の存在, 開示, 実施 ア FDの存在	FD委員会	FD委員会を設置し, FD活動についての企画・運営を行っている。		○	FD委員会を設置し, FD活動についての企画・運営を行っている。	
	イ FDの開示方法		FD研修会及び勉強会へ参加した報告書を学内教職員が閲覧できるよう, 学内ネットワークに掲載した。		○	FD研修会及び勉強会へ参加した報告書を学内教職員が閲覧できるよう, 学内ネットワークに掲載した。	
	ウ FDの実績		・本校教員や外部から招聘した講師によるFD研修会を3回実施した。全教員対象1回、各キャンパスで実情に応じたテーマでそれぞれ1回開催した。 ・教員間の授業参観も実施し, 評価シートに基づき授業改善等の検討を行った。		○	・本校教員や外部から招聘した講師によるFD研修会を3回実施した。全教員対象1回、各キャンパスで実情に応じたテーマでそれぞれ1回開催した。 ・教員間の授業参観も実施し, 評価シートに基づき授業改善等の検討を行った。	
	(4) 教員の教育活動に関する評価方法の開示・実施 ア 教員の教育に関する貢献の評価方法	副校長	教員顕彰制度を実施した。教員の給与等にも教育業績等を加味した。		○	教員顕彰制度を実施した。教員の給与等にも教育業績等を加味した。	
	イ 教育貢献評価方法の開示状況		教育貢献評価方法の開示状況は, 活動実績が有る場合にホームページなどに掲載を行っている。		○	教育貢献評価方法の開示状況は, 活動実績が有る場合にホームページなどに掲載を行っている。	
	ウ 教育貢献評価の実績		平成23年度から続けて, 教員の教育貢献について評価を行っている。教員表彰や教員の給与に評価内容を反映している。		○	平成23年度から続けて, 教員の教育貢献について評価を行っている。教員表彰や教員の給与に評価内容を反映している。	
2-4	入学, 学生受け入れ及び異動の方法	入試委員会					
	(1) 入学者選抜方法の開示とそれに基づく選抜の実施 ア 選抜の基本方針		推薦選抜基本方針については, 2C入試委員会で審議決定している。		○	推薦選抜基本方針は入試委員会で審議決定している。	
	イ 具体的選抜方法		推薦選抜入試検討WGにおける選抜方法等の検討結果を基に2C入試委員会で審議決定している。		○	入試検討WGにおける選抜方法等の検討結果を基に入試委員会で審議決定した。	
	ウ 選抜方法の学内外への開示方法		入学者選抜方法の内容を学生募集要項に記載して公開するとともに, オープンキャンパス, 中学校訪問, 学生募集説明会等において, 中学生や中学校教員に対して説明を行った。		○	入学者選抜方法の内容を学生募集要項に記載して公開するとともに, オープンキャンパス, 中学校訪問, 学生募集説明会等において, 中学生や中学校教員に対して説明を行った。	
	(2) 編入方法および編入基準の開示とそれに基づく選抜の実施 ア 選抜の基本方針	入試委員会	決定している。		○	編入方法および編入基準は入試委員会で審議決定している。	
	イ 具体的選抜方法		決定している。		○	編入方法および編入基準は入試委員会で審議決定した。	
	ウ 選抜方法および選抜基準の学内外への開示方法		7月に学生募集要項を公表し, HPに掲載した。		○	7月に学生募集要項を公表し, HPに掲載する。	
	(3) カリキュラム履修生の移籍	教務委員会	該当事項なし		○	該当事項なし	
2-5	教育環境・学生支援	施設・設備整備委員会, 安全衛生委員会	【施設・設備整備委員会】 学生にとって良い教育環境を維持するために, 教室, 実験室, 演習室, 図書室, 情報関連設備等の学校施設の整備を継続的に実施している。本年度実施分は以下のとおりである。 (本郷キャンパス) ・共通棟2-3階フロアの老朽化した空調機を更新した。 ・実習工場精密測定室の環境改善のため床の補修及び空調換気扇を設置した。 ・短期留学生受け入れのため, 使用頻度の低い職員厚生施設2階を受け入れ施設として改修した。(2期計画の2期目)		○	【施設・設備委員会】 学校施設の整備を継続的に実施しているが今年度は教職員・学生の安全対策及び省エネ対策を実施。本年度実施分は以下のとおりである。 (本郷キャンパス) ・営繕事業として, 寄宿舍4号館1階及び集会室の改修を行い, 寮生の生活環境を整備 ・教育後援会による整備事業としてテニスコート1面整備	

			<p>・校長裁量経費の事業として、敷地外周に植えられた樹木の越境枝の処理等を行い樹形を整え美観を向上させた。</p> <p><射水キャンパス></p> <p>・学内営繕事業として、①職員宿舍取壊年次計画に基づいて、14・15・19号棟の3戸を取り壊した。②陸上競技場のインフィールドの凸凹整備③教室等15部屋の壁面塗替及び2部屋の掲示板の張替④図書館内に職員用男女別ロッカー室兼更衣室の設置、校長裁量経費の事業として第2体育館ステージ及び第1専門棟階段室の照明を省エネ及び取替寿命の長いLEDランプに交換した。</p>			<p>・女子寮防犯対策として1階フロア窓に格子設置</p> <p>・省エネ・安全対策としてM棟、E棟、武道場に網戸設置</p> <p>・女子学生のキャンパスアメニティの向上のためE棟女子トイレの和便を様式便器に取替</p> <p>・教職員・学生の安全対策のため福利施設渡り廊下の雨漏れ対策を実施</p> <p><射水キャンパス></p> <p>学内営繕事業として、①第1専門棟の非常放送設備を更新した。②職員宿舍取壊年次計画に基づいて、職員宿舍3・5・7号棟の3棟を取り壊した。③第3寮棟2・3階の女子寮化に向けての整備として、第3寮棟屋外非常階段の照明設備をLED照明器具へ更新し、省エネ推進を図り、玄関ホール、階段室、2階寮室の壁等の塗装補修を行う。</p>	
<p>(2) 教育環境および学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みの存在、その仕組みの開示、活動の実施</p>		<p>教務委員会 学生委員会 寮務委員会 学生相談室 進路指導室</p>					
<p>ア 支援体制の活動実施状況</p>			<p>【教務委員会】 定期試験前に、低学年補講を実施した。 11月頃より特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。 学生相談室は年間を通じて対応している。</p> <p>【学生委員会】 ①就学支援-授業料免除については、掲示板、HP および該当する学生への通知を行い、学生委員会で免除対象者を決定した。 ②福利厚生-生協において、食堂、売店運営等各種支援の他、学生会生協委員が中心となり還元セールを企画し実行した。 ③その他学生支援 ・学生委員会が中心となり、下記講習会を実施した。 ・性に関する講習会（1年生） ・交通安全講習会（4,5年、専攻科生） ・薬物に関する講習会（3年生） ・ネットモラル講習会（2年生） ・熱中症予防対策講座（全クラブ・同好会参加） 全学生を対象に、いじめアンケートを実施した。</p> <p>【学生相談室】 各キャンパス相談室において、相談員による相談のほか、カウンセラーによる相談を週2回実施した。年2回のこころと体の健康調査を実施した。</p> <p>【進路指導室】 1月14日(土)に企業研究会を開催し、技術振興会企業58社、両キャンパスから156名の学生参加があった。さらに射水キャンパスでは、4年生を対象に就職説明会、進学説明会を実施し約100名以上(5月、2月実施予定)が参加した。求人ネットシステムにより学生へ求人情報を公開した。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【教務委員会】 低学年を対象として定期試験前に数学・物理の補講を実施した。 特命フェローによる基礎科目の補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。</p> <p>【学生委員会】 ①就学支援-授業料免除や各種奨学金について学生委員会で承認、実施した。 ②福利厚生-キャンパス内に生協があり、生協社員、学生委員会、職員、学生会から構成される理事会で運営している。 ③その他学生支援-学生委員会において学生のための各種講演会を企画開催した。 ④全学生を対象にいじめアンケートを実施した。</p> <p>【学生相談室】 各キャンパスに学生相談室を設置し、相談員によるカウンセリングを行っている。また治療が必要な場合には、学校医等、カウンセラー等と連携しながら対応している。その他、こころと体の健康調査を実施した。</p> <p>【進路指導室】 11月16日に企業研究会を開催し、技術振興会企業110社、3,4年の学生が参加した。さらに、4年生を対象に就職説明会、進学説明会を実施し約100名以上(5月、2月実施予定)が参加した。 求人ネットシステムにより学生へ求人情報を公開した。</p>	

	イ 支援体制の教員、職員および学生に対する開示		<p>支援体制は教員、職員及び学生に公開している。</p> <p>【教務委員会】 定期試験前に、低学年補講を実施した。 11月頃より特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。</p> <p>学生相談室は年間を通じて対応している。</p> <p>【学生委員会】 ①就学支援-授業料免除制度や各種奨学金制度については、掲示板、HP、学生への説明会および保護者への通知を行っている。 ②福利厚生-生協に還元セール等の実施や、長期休暇中の実施時間、実施日の掲示、案内をしている。 ③その他学生支援 講習会は、掲示板および担任への周知を行い、実施後には、HPに掲載している。</p> <p>【学生相談室】 学生相談室について、HPでお知らせを実施、新入生オリエンテーション時に学生相談室のパンフレットを配付、保護者あてには相談室の案内を郵送した。</p> <p>【進路指導室】 HPで企業向けに就職関係のお知らせ、学生へは、担任から進路についての各種お知らせを行っている。また、求人ネットシステムの利用について、保護者にも文書でお知らせした。</p>		○ ○ ○ ○	<p>【教務委員会】 支援体制及びその活動実施状況は教員会議で報告している。</p> <p>【学生委員会】 ①就学支援-授業料免除制度や各種奨学金制度について、掲示板、HP、学生への説明会、保護者への通知を行った。 ②福利厚生-長期休暇中の実施日時の掲示、案内を行った。 ③講習会は、掲示板及び担任への周知を行い実施後にはHPに掲載した。</p> <p>【学生相談室】 学生相談室について、HPでお知らせを実施、新入生オリエンテーション時に学生相談室のパンフレットを配付、保護者あてには相談室の案内を郵送した。</p> <p>【進路指導室】 支援体制及びその活動実施状況は教員会議で報告している。</p>	
	(3) 施設、設備の整備・維持・運用に必要な財源確保への取り組み	予算委員会	<p>【予算委員会】 施設等の維持管理のために、教育等施設基盤経費を充て施設等の健全な運用を行っている。</p>		○	<p>【予算委員会】 施設等の維持管理のために、教育等施設基盤経費を充て施設等の健全な運用を行っている。</p>	
3 学習・教育目標の達成	(1) 科目ごとの目標に対する達成度評価の実施	教務委員会 (専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 科目ごとに目標をシラバスに掲載し、各担当教員が期末試験等で達成度の確認を行っている。</p> <p>【専攻科委員会】 科目毎に、シラバスに記載された達成度評価基準に従って評価している。</p>		○ ○	<p>【教務委員会】 科目ごとに到達目標をシラバスに記載し、各担当教員が期末試験等で達成度の確認を行っている。</p> <p>【専攻科委員会】 科目毎に、シラバスに記載された達成度評価基準に従って評価している。</p>	
	(2) 他の高等教育機関で取得した単位および編入生等が編入前に取得した単位に関する評価方法・評価基準の作成とそれに基づく単位認定の実施	教務委員会 (専攻科委員会)					
	ア 評価方法と評価基準の作成		学業に関する規則(第9条, 10条)で定めている。		○	<p>【教務委員会】 学業に関する規則(第9条, 10条)で定めている。</p>	
	イ 評価方法と評価基準の運用		規則に基づき、教務委員会で審議し単位の認定を行っている。		○	<p>【教務委員会】 規則に基づき、教務委員会で審議し単位の認定を行っている。</p>	
	(3) 学習・教育目標の各項目に対する達成度の総合的評価方法・評価基準の作成とそれに基づく評価の実施	教務委員会 (専攻科委員会)					
	ア 学習・教育目標の各項目の達成度の評価方法と評価基準の設定	自己点検評価委員会 (STCW 専門部会)	教科毎に、学科の学習・教育目標にもとづいた達成度と評価基準は設定され、シラバスに記載されている。		○	<p>【教務委員会】 科目毎に、学科の学習・教育目標にもとづいた到達度と評価基準は設定され、シラバスに記載されている。</p>	

	イ	学習・教育目標の各項目の達成度評価方法と評価基準を設定した際に考慮した「社会の要請する水準」の具体的根拠		カリキュラムや学習目標は、モデルコアカリキュラムやその他の認証評価基準や学協会の提言を参考に検討されている。 「エコデザイン教育プログラム」は、一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)の継続認定審査を受審し、認定された。		○	【教務委員会】 カリキュラムや学習目標は、モデルコアカリキュラムやその他の認証評価基準や学協会の提言を参考に検討されている。	
	ウ	学習・教育目標の各項目の達成度評価方法と評価基準の運用実績		学生による授業点検アンケートの実施、シラバスおよび答案等資料の保管により適正な評価が運用されていることを確認している。		○	【教務委員会】 学生による授業点検アンケートの実施、シラバスおよび答案等資料の保管により適正な評価が運用されていることを確認している。	
	(4)	修了生全員のすべての学習・教育目標の達成	専攻科委員会	【専攻科委員会】 修了生全員が自ら達成度自己点検表により達成度を点検し、これを特別研究指導教員、副専攻科長、学務課・学生課教務担当が点検し、専攻科委員会で審議、確認している。学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。		○	【専攻科委員会】 修了生全員が自ら達成度自己点検表により達成度を点検し、これを特別研究指導教員、副専攻科長、学務課・学生課教務担当が点検し、専攻科委員会で審議、確認している。学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。	
4 教育改善	4-1 教育点検	(1) 学習・教育目標達成状況の評価結果に基づいて、基準に則してカリキュラムの教育活動を点検できる仕組みの存在とその開示・実施	教務委員会 学生委員会 寮務委員会 (専攻科委員会) 自己点検評価委員会 (STCW 専門部会)					
	ア	教育点検システムの存在		【教務委員会】 教務委員会・FD委員会において、教育課程等の点検を実施している。 【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート、学生懇談会が実施されている。FD委員会に、教育改善専門部会を設置し、点検を行っている。		○ ○	【教務委員会】 教務委員会及びFD委員会において教育活動の点検システムが構成されている。 【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート、学生懇談会が実施されている。FD委員会に、教育改善専門部会を設置し、点検を行っている。	
	イ	教育点検システムの教員に対する開示		【教務委員会】 教員会議や学科会議等で点検内容等を報告している。 【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。		○ ○	【教務委員会】 教員会議や学科会議等で点検内容等を報告している。 【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。	
	ウ	教育点検システムに関する活動の実施		【教務委員会】 学生授業評価アンケートを実施し、授業等に関する改善を進めている。また、学生・教務上の制度の整備・検討を実施している。前後期の2回、学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの全体的な集計結果に基づき、FD委員会や教務委員会で授業改善に向けた意見交換を行い、各個別データについては所属学科長を通じ教員へフィードバックし、学科内で改善点について話し合いを行った。 【専攻科委員会】 自己点検評価委員会、同WGが活動を行っている。		○ ○	【教務委員会】 学生による授業評価アンケート、教員相互のピアレビューの結果は、所属学科長を通じ教員へ通知し各教員が改善策を記載した。同時に学科内でも改善点について話し合いを行った。以上の結果がFD委員会に報告され、学校全体としての教育改善に関する意見交換を行った。 【専攻科委員会】 自己点検評価委員会、同WGが活動を行っている。	
	(2)	カリキュラムの教育活動を点検する仕組みにおける社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みの存在と、カリキュラムの教育活動を点検する仕組み自体の機能も点検できる構成	教務委員会 (専攻科委員会) 自己点検評価委員会 (STCW 専門部会)					
	ア	社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みの存在		【教務委員会】 学生による授業評価アンケートを実施している。また、本校在生からの意見を聞く学生懇談会も定期的実施している。		○	【教務委員会】 ・学内サーバーに議事要旨を掲載し、随時閲覧可能となっている。 ・教員会議や学科会議等で報告している。	

			<p>【専攻科委員会】 本校の外部評価委員会として運営諮問会議がある。また、本校在学学生からの意見を聞く学生懇談会も定期的実施している。以上の意見を参考に、カリキュラムの改善を実施している。</p>		○	<p>【専攻科委員会】 本校の外部評価委員会として運営諮問会議がある。また、本校在学学生からの意見を聞く学生懇談会も定期的実施している。以上の意見を参考に、カリキュラムの改善を実施している。</p>	
	イ 点検システム自体を点検できる構成		<p>【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会および同WGは、教育活動を点検する仕組みが機能しているかどうかをチェックし、必要に応じて改善している。</p>		○	<p>【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会および同WGは、教育活動を点検する仕組みが機能しているかどうかをチェックし、必要に応じて改善している。</p>	
	(3) カリキュラムの教育活動を点検する仕組みを構成する会議や委員会等の記録の当該カリキュラム関係教員に対する閲覧手段の提供 ア 関係教員が記録を閲覧する方法	教務委員会 (専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 ・学内サーバーに議事要旨を掲載し、随時閲覧可能となっている。 ・教員会議や学科会議等で報告している。</p> <p>【専攻科委員会】 ・運営審議会、教員会議、教員報告会、各種委員会で報告している。 ・グループウェアに議事録等を登録することにより、情報の共有化を図っている。</p>		○	<p>【教務委員会】 ・学内サーバーに議事要旨を掲載し、随時閲覧可能となっている。 ・教員会議や学科会議等で報告している。</p> <p>【専攻科委員会】 ・運営審議会、教員会議、教員報告会、各種委員会で報告している。 ・グループウェアに議事録等を登録することにより、情報の共有化を図っている</p>	
4-2 継続的改善	(1) 教育点検の結果に基づいて、基準の内容(分野別要件を含む)に則してカリキュラムを継続的に改善する仕組みの存在と、改善活動の実施 ア 改善システムの存在 イ 改善活動の実施状況	教務委員会 (専攻科委員会) 自己点検評価委員会 FD委員会	<p>【自己点検評価委員会】 ・自己点検評価委員会において、PDCAサイクルの仕組みを明らかにし、サイクルにおける役割・分担を明確にした。</p> <p>【教務委員会】 新教育課程を点検し、カリキュラムの改定等を行う。学級担任を通じて学生のニーズ把握に努めている。</p> <p>【専攻科委員会】 学生との懇談会を定期的実施し、学生からの要望を取りまとめ、対応可能な事項について改善している。</p>		○	<p>【自己点検評価委員会】 ・自己点検評価委員会において、PDCAサイクルの仕組みを明らかにし、サイクルにおける役割・分担を明確にして実行している。</p> <p>【教務委員会】 新教育課程を点検し、カリキュラムの改定等を行う。学級担任を通じて学生のニーズ把握に努めている。</p> <p>【専攻科委員会】 学生との懇談会を定期的実施し、学生からの要望を取りまとめ、対応可能な事項について改善している。</p>	
5 国際交流	(1) 国際的な学術交流活動の推進 ア 学生の交流活動状況及び指導体制	製品開発・社会貢献本部 (ソリューションセンター、イノベーションセンター、国際交流センター) 教務委員会 各学科・専攻科	<p>【製品開発・社会貢献本部】 本年度の実績は下記の通りである。(国際交流センター) ・2名の専攻科生がISTSに参加した。 ・シンガポール・テマセクポリテクニクから4名の短期留学生を受け入れた。 ・シンガポール・ナンヤンポリテクニクから4名の短期留学生を受け入れた。 ・タイ・キングモンクット工科大学ラカバンから11名の短期留学生を受け入れた。</p> <p>【教務委員会】 短期留学受入規則に基づき、交流を行う計画を進めている。 本校(本郷C)実施の北陸地区高等専門学校留学生研修旅行に留学生、担当教職員が参加した。 (北陸地区高専が持ち回りで主管)</p>		○	<p>【製品開発・社会貢献本部】 本年度の実績は下記の通りである。(国際交流センター) ・10名の専攻科生が海外の研究機関でのアカデミックインターンシップに参加した。 ・シンガポール・テマセクポリテクニクから4名の短期留学生を受け入れた。 ・シンガポール・ナンヤンポリテクニクから4名の短期留学生を受け入れた。 ・タイ・キングモンクット工科大学ラカバンから14名の短期留学生を受け入れた。</p> <p>【教務委員会】 短期留学受入規則に基づき、交流を行う計画を進めている。 北陸地区高等専門学校留学生研修旅行(本年度は福井高専が主管)に留学生、担当教職員が参加した。</p>	

【機械システム工学科】

3年生、4年生5年生に在籍中の留学生に対する教育指導および進路指導を行った。タイからの短期留学生を受け入れ、研究指導を行った。

【電気制御システム工学科】

- ・5年生のモンゴルからの国費留学生の学生交流、教育指導および進路指導を行った。
- ・シンガポールからの短期留学生4名を受け入れ、研究指導を行った。

【物質化学工学科】

3年生4名がKCCにおける英語圏異文化実習に参加する予定である(2017年2月25日(土)～3月18日(土))。5年生による国際学会での研究発表が3件あり、海外研究者との研究を通じた交流があった。

【電子情報工学科】

シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通じた交流を行った。3年生2名がKCCにおける英語圏異文化実習に参加した。

【国際ビジネス学科】

今年度も多くの学生を送り出す一方で、アジアからの短期留学生を受け入れた。前者については、異文化実習プログラム(台湾・ロシア・韓国、各4週間弱)、長期留学プログラム(半年及び1年、いずれもカナダ)を実施した。参加者数は、異文化実習プログラム：台湾4名、韓国6名、ロシア4名、カナダ17名；提携校長期留学プログラム：カナダ1年留学12名、カナダ半年留学6名。さらに今年度は、富山県主催大連YKKジッパー社企業研修に2名が参加した(2週間)。上記実施にあたり、事前指導、事後指導の充実を図り、数回に亘るガイダンスに加え、2月および7月には事前語学セミナーを実施し、長期留学生には帰国後英文ライティング指導を実施した。

後者の留学生の受け入れについては、タイから4名、シンガポールから2名の留学生を学科として受入れ、学科教員が研究指導を行なった。

【商船学科】

商船学科国際インターンシップを前年度と同様に実施し、学生を派遣することができた。

【一般教養科】

昨年度から引き続き、提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジの英語圏異文化実習を2月～3月にかけて行い、工学系の3年生、6名が参加する予定である。学生は3回の事前研修をして準備をする。また、現地の学生とともに授業を受け、ホームステイやボランティアなどを通して、国際的なセンスを磨く予定である。

○

○

○

○

○

○

○

【機械システム工学科】

3年生、4年生5年生に在籍中の留学生に対する教育指導および進路指導を行った。タイからの短期留学生を複数名受け入れ、研究指導を行った。

【電気制御システム工学科】

シンガポール、タイからの短期留学生をそれぞれ3名、1名受け入れ、研究指導を行った。

【物質化学工学科】

教員1名がKCCにおける英語圏異文化実習の引率業務に従事する予定である(2018年3月5日～)。また、2名の教員がタイから短期留学生2名を受け入れ、6月5日から約2ヶ月間研究指導を行った。

【電子情報工学科】

シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通じた交流を行った。3年生4名がKCCにおける英語圏異文化実習に参加した。

【国際ビジネス学科】

今年度も多くの学生を送り出す一方で、アジアからの短期留学生を受け入れた。前者については、異文化実習プログラム(台湾・ロシア・韓国、各4週間弱)、長期留学プログラム(半年及び1年、いずれもカナダ)を実施した。参加者数は、異文化実習プログラム：台湾12名、韓国5名、ロシア6名、カナダ9名；提携校長期留学プログラム：カナダ1年留学7名、カナダ半年留学4名。さらに今年度は、富山県主催大連YKKジッパー社企業研修に1名が参加した(2週間)。上記実施にあたり、事前指導、事後指導の充実を図り、数回に亘るガイダンスに加え、2月および7月には事前語学セミナーを実施し、長期留学生には帰国後英文ライティング指導を実施した。

後者の留学生の受け入れについては、タイから4名、シンガポールから1名の留学生を学科として受入れ、学科教員が研究指導を行なった。

【商船学科】

商船学科国際インターンシップを前年度と同様に実施し、学生を派遣した。継続のための努力を引き続き実行する。

【一般教養科】

昨年度から引き続き、提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジの英語圏異文化実習を2月～3月にかけて行い、工学系の3年生、5名が参加する予定である。学生は3回の事前研修をして準備をする。また、現地の学生とともに授業を受け、ホームステイやボランティアなどを通して、国際的なセンスを磨く予定である。

		<p>【専攻科】 海外インターンシップ参加を推奨し、マレーシアやタイの事業所での2週間のインターンシップに7名の学生を派遣した。また、英国北アイルランド South Eastern Regional College での国際インターンシップに3名が参加した。今年度新たにハンガリーの2大学でアカデミックインターンシップ(1ヶ月)を実施し、4名の学生が参加した。 高専連携セミナー(Joint-CAST)において、専攻科生が発表と司会を行った。タイ・キングモンクット工科大学と連携して実施した ICET2016 において、52名の専攻科生がポスター発表を行った。</p>			<p>【専攻科】 海外インターンシップ参加を推奨し、マレーシアやタイの事業所での2週間のインターンシップに6名の学生を派遣した。また、英国北アイルランド South Eastern Regional College での国際インターンシップに7名が参加した。また、ハンガリーの2大学、タイ KMITL、韓国核融合研究所でのアカデミックインターンシップ(1ヶ月)を実施し、8名の学生が参加した。 高専連携セミナー(Joint-CAST)において、専攻科生が発表と司会を行った。とやま KOSEN 研究推進フォーラムにおいて、国外の招聘者3名の講演の聴講と、専攻科生55名の英語による研究ポスター発表、そして県内企業の発表を実施し、専攻科生と国外研究者ならびに社会人との交流を行った。</p>
イ 交流協定の締結状況と活用状況	<p>【製品開発・社会貢献本部】 平成28年10月に、富山において、キングモンクット工科大学 [KMITL] と共同で、工学と技術に関する国際会議(ICET2016)を開催した。参加者は本校教職員・学生、他機関、本校技術振興会企業の約130名であった。(ソリューションセンター) 交流協定に基づき、以下の事業を行った。(国際交流センター) ・平成28年10月に、タイにおいて、キングモンクット工科大学 [KMITL] と共同で、工学と技術に関する国際会議(ICET2016)を開催した。 ・平成28年11月に実施した専攻科生を対象とした小国際会議「Joint-CAST」においてアドバイザーとして3校の提携校から教員を招聘した。 ・平成28年9-10月と平成29年3月にバズマニ大学(ハンガリー)、ブダペスト工科大学(ハンガリー)へ教員を派遣した。 ・シンガポール・ナンヤンポリテクニクとの交流協定を更新した。</p> <p>【機械システム工学科】 タイからの短期留学生を受け入れ、研究指導を行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 シンガポールからの短期留学生4名を受け入れ、研究指導を行った。</p> <p>【電子情報工学科】 シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通じた交流を行った。</p> <p>【物質化学工学科】 今年度は当該学科への希望者がいなかったため受け入れは無かった。</p> <p>【国際ビジネス学科】 ・平成18年度から本校とカナダのビクトリア大学(The University of Victoria)と長期留学プログラムの提携を結び、4年次前期の半年留学を、平成20年度からは、バンクーバー・アイランド大学附属高校(The High School at Vancouver Island University)と提携し3年次の1年留学をスタートさせて、毎年継続的に数名ずつが参加し現在に至っている。平成28年度までの累積でそれぞれ、55名、33名が参加している。 ・タイから4名、シンガポールから2名の留学生を学科として受入れ、学科教員が研究指導した。(再掲)</p>		<p>【製品開発・社会貢献本部】 交流協定に基づき、以下の事業を行った。(国際交流センター) ・英国北アイルランドの SERC より学長が来訪した。また、本校校長と教員1名が SERC を訪問した。さらに、提携開始10周年を記念した式典が SERC で行われ、本校校長と教員1名が出席した。 ・ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジの学長が本校を訪問し、提携について意見交換を行った。 ・キングモンクット工科大学より教職員3名が来訪した。ICET の後継事業として、同大学工学部が主催する ICEAST2018 を本校が共催することとなった。 ・平成28年11月に実施した専攻科生を対象とした小国際会議「Joint-CAST」においてアドバイザーとして3校の提携校から教員を招聘した。 ・平成29年8-10月にバズマニ大学(ハンガリー)へ教員を派遣した。 ・フィンランド Vaasan lyseon lukio と新たに交流協定を締結した。</p> <p>【機械システム工学科】 タイからの短期留学生を複数名受け入れ、研究指導を行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 シンガポール、タイからの短期留学生をそれぞれ2名ずつ受け入れ、研究指導を行った。</p> <p>【電子情報工学科】 シンガポール・タイから短期留学生を受け入れ各研究室で指導を行うとともに学生間で研究を通じた交流を行った。</p> <p>【物質化学工学科】 4名の教員が国際学会で合計22件の研究発表を行い、1名の教員が国際学会で招待講演を行った。</p> <p>【国際ビジネス学科】 ・平成18年度から本校とカナダのビクトリア大学(The University of Victoria)と長期留学プログラムの提携を結び、4年次前期の半年留学を、平成20年度からは、バンクーバー・アイランド大学附属高校(The High School at Vancouver Island University)と提携し3年次の1年留学をスタートさせて、毎年継続的に数名ずつが参加し現在に至っている。平成29年度までの累積でそれぞれ、59名、40名が参加している。 ・タイから4名、シンガポールから1名の留学生を学科として受入れ、学科教員が研究指導した。(再掲)</p>		

		<p>【商船学科】 商船学科国際インターンシップは、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジと締結された協定に基づき実施されている。同国際インターンシップを実施することで協定を活用している。</p> <p>【一般教養科】 ハワイのカウアイコミュニティカレッジにおける「英語圏異文化実習(工学系プログラム)」に3年工学系学生8名が参加し、引率指導に教員を派遣した。</p>		○ ○	<p>【商船学科】 商船学科国際インターンシップは、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジと締結された協定に基づき実施されている。同国際インターンシップを実施することで協定を活用している。</p> <p>【一般教養科】 ハワイのカウアイコミュニティカレッジにおける「英語圏異文化実習(工学系プログラム)」に3年工学系学生6名が参加し、引率指導に教員を派遣した。</p>	
ウ 教員の海外学術活動		<p>【製品開発・社会貢献本部】 平成28年9-10月と平成29年3月にブダペスト工科経済大学、パズマニ大学(いずれもハンガリー)へ教員を派遣した。(国際交流センター) 交流協定校サウスイースタン地区連合カレッジ(SERC)とエラスムプラスによる交流協定に基づき、アクティブラーニング、ロボティクス、産学連携の3分野における教員の派遣・受入を行った。(国際交流センター)</p> <p>本年度は該当の招聘事業および予算処置がなかったため、セミナー等の開催は行わなかった。(イノベーションセンター)</p> <p>【機械システム工学科】 海外インターンシップや研修のため、2名の教員が派遣された。</p> <p>【電気制御システム工学科】 ・平成29年度富山高等専門学校教員海外短期派遣制度を利用して北村教員の派遣を決定した。 ・本学科教員の国際会議発表件数は8件であった。</p> <p>【物質化学工学科】 4名の教員が国際学会で合計28件の研究発表を行い、1名の教員が国際学会で招待講演を4件、海外研究者との共同研究を3件および海外研究機関との共同研究を1件行った。</p> <p>【電子情報工学科】 ・本学科教員の国際会議発表件数は15件であった。 ・海外の大学と研究打ち合わせを行った。 ・平成28年度富山高等専門学校教員海外短期派遣制度を利用して伊藤教員を派遣した。</p>	海外協定校等の交流事業を活用し、当該事業を積極的に推進することを検討する。	○ ○ ○ ○	<p>【製品開発・社会貢献本部】 平成29年9-10月と平成29年3月にパズマニ大学(ハンガリー)、ビクトリア大学(カナダ)へ教員を派遣した。(国際交流センター)</p> <p>【機械システム工学科】 4名の教員が、海外にて開催された国際学会にて、4件の研究発表を行った。また、1名が、海外インターンシップ先の視察を行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 ・平成29年度富山高等専門学校教員海外短期派遣制度を利用して北村教員を派遣した。 ・本学科教員の国際会議発表件数は11件であった。</p> <p>該当なし</p> <p>【電子情報工学科】 ・本学科教員の国際会議発表件数は12件であった。 ・海外の大学と研究打ち合わせを行った。</p>	

		<p>東海北陸国立高専と㈱デンソーによる共催の第6回小水力発電アイデアコンテストに参加している。このコンテストを通して、学生の技術開発力を育成するとともに、地域に自然エネルギーによる発電の啓発と普及に努めている。</p> <p>【製品開発・社会貢献本部】 射水市の2つの小学校において、留学生と留学経験のある日本人学生が、小学校の外国語活動に参加し、留学生の母国紹介や学生の留学経験に関するプレゼンテーションをのべ4回行った。(国際交流センター)</p> <p>射水教育委員会が主催する市内中学生のための土曜塾、夏休み補講の講師として学生の派遣に協力した。(学生主事室)</p> <p>【製品開発・社会貢献本部】 企業等との共同研究、受託研究を推進し、特に技術振興会会員企業との共同研究には技術振興会予算に基づく助成を行った。件数は共同研究30件(うち技術振興会企業23件)、受託研究7件(うち技術振興会企業0件)であった。(イノベーションセンター) 共同研究件数を増やすことを目的に、助成制度の見直しを行った。(イノベーションセンター)</p>		○	<p>東海北陸国立高専と㈱デンソーによる共催の第7回小水力発電アイデアコンテストに参加している。このコンテストを通して、学生の技術開発力を育成するとともに、地域に自然エネルギーによる発電の啓発と普及に努めている。</p> <p>【製品開発・社会貢献本部】 留学生と留学経験のある日本人学生が、射水市の小学校を訪問し、留学生の母国紹介や学生の留学経験に関するプレゼンテーションを行う事業を1回実施した。(国際交流センター) 射水教育委員会が主催する市内中学生のための土曜塾、夏休み補講の講師として学生の派遣に協力した。(学生主事室)</p> <p>【製品開発・社会貢献本部】 企業等との共同研究、受託研究を推進し、特に技術振興会会員企業との共同研究には技術振興会予算に基づく助成を行った。件数は共同研究44件(うち技術振興会企業24件)、受託研究5件(うち技術振興会企業0件)であった。(イノベーションセンター) 共同研究件数を増やすことを目的に、助成制度の見直しを行った。(イノベーションセンター)</p>	
	ア 地域社会との共同研究・共同開発事業の企画・実施	<p>【製品開発・社会貢献本部】 主に地域の技術者をシニアフェローとして任命し、講義・実習等に活用した。(イノベーションセンター)</p>		○	<p>【製品開発・社会貢献本部】 主に地域の技術者をシニアフェローとして任命し、講義・実習等に活用した。(ソリューションセンター)</p>	
	イ 地域社会との連携による本校教育の高度化のための企画・実施	<p>【製品開発・社会貢献本部】 地域社会との連携のため、年2回開催しているグリーンイノベーション研究会を開催、中小企業のものづくりやグリーン経営に関する情報を提供した。(イノベーションセンター) また、企業研究会や企業見学会を開催した。(イノベーションセンター)</p>		○	<p>【製品開発・社会貢献本部】 地域社会との連携のため、年2回開催しているグリーンイノベーション研究会を開催、中小企業の研究開発・ものづくりに関する情報を提供した。(イノベーションセンター) また、企業研究会や企業見学会を開催した。(ソリューションセンター)</p>	
	エ 地域社会との連携事業に関する広報	<p>【製品開発・社会貢献本部(ソリューションセンター)・志願者対策室】 本校近隣の小中学校等を対象に、他の教育機関との連携組織基盤づくりの一環として、年間を通して出前授業を、夏休み期間には中学生を対象とした公開講座を、それぞれ対象者のニーズを捉えた37講座を開講し、1,344名の参加があった。多くの講座で募集定員を上回る申込みがあり、全体として定員を上回る受講者を受け入れて実施した。受講後の参加者アンケートでも内容について高い満足度となった。</p>				